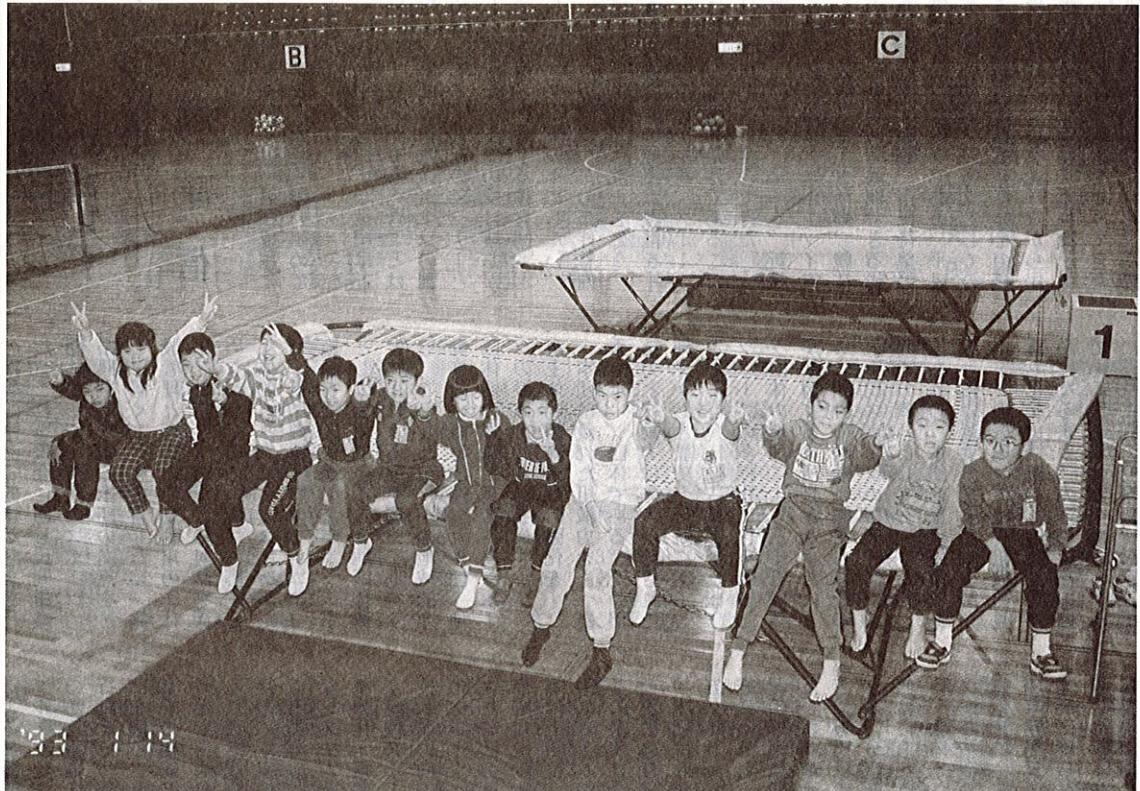


柏崎体育

発行所 柏崎体育団

編集者 近藤康信

印刷所 株柏崎インサツ



人気の“わんぱくスポーツ塾”

体育施設管理公社では多くのスポーツ教室が実施されています。小学生から若者、高齢者と幅広く、年代に見合った内容で行われていますが、「最近人気が高まって来た教室に「わんぱくスポーツ塾」があります。

学校の枠を超えて三十数名のチビッ子が週二回放課後集まって来ます。

今時期は屋内でトランポリン、室内サッカー、バスケットなど遊び箱が主になるが、春から秋にかけては山道探検やドローン遊びにはだしのサッカーなど、汗をかきかきとびまわっています。

いろいろな動きを通じて、学年の縦の線の認識も含めて、上級生は下級生の世話をするなどの行動も意図しながらさせています。

「スポーツが得意でなくてもいいが、好きな子供にするな」と親には望みたいと思います。

「三十一世紀のスポーツ都市柏崎」

めざして

大胆にスポーツ文化改革を――

理事長 近藤 康信

人間本来の欲求である運動欲を満たすスポーツは、現代社会では極めて重要な人類共通の文化の一つとして意義付けられ、二十一世紀に向けて新たな振興、推進が望まれている。

体育都市を市民の顔としてきた柏崎なれば、全市民による「スポーツ文化改革」は当然のこと、わが体育団は創立精神に基づき、その前衛として主体的に働くねばならない。

昭和の柏崎体育は、よき指導者と市民が一体となって「生命体育」の理想郷柏崎をめざし逞ましい市民運動を開拓すると共に競技体育の活躍は市勢の活性源となり体育都市を形成してきた。その伝統は後輩に受け継がれしたものの、社会的環境の変化に伴うスポーツへの関心の高まり、そのニーズの多様化、高度化により、各方面で施設の整備などスポーツ振興事業への支援体制が充実、結果として競技水準の向上、生涯スポーツの普及が図られ、スポーツ界も群雄割拠の時代となり、わが柏崎

も苦戦を強いられ、競技成績に一抹の不安が色濃く漂い始めた。

時代は平成、「三十一世紀は近い。今、我等がやるべきことは何か。平成の柏崎スポーツの創始者として、世紀のランナーとして確かなバトンの受け渡しができる様「行動する体育団」としてのスタートの年にしたい。

そのための幾つかの条件整備について提言、「批正を乞う。」

●総合体育館に総拠点機能を――

施設は市民が生涯、スポーツに親しむ基礎的条件であることは、市民と共に生きてきた「大運動場」の歴史に学べる。新設の市民体育館は、スポーツイベント、健康スポーツ活動、競技力向上活動が同時展開できる総合運動場であり、市民待望の第二スポーツ広場である。平成の柏崎スポーツの拠点としての活用が期待される。幸いその経営が行政の支援を受けながら民営となつた。これまで官民一体の体育行政で成果を挙げてきたものの行政依存は免れず、活動

の踏襲、停滞、低迷が懸念された。これを機会に同じ民間組織団体として、市民のスポーツの振興を追求する本団の拠点をここに置くことを提言したい。施設管理と市民の活動利用の一体化を目指し、市民との対話を深めながら、そのニーズに応じる主導的エリヤサービスに努めた。更に各地区的コミュニティ施設を地区住民のスポーツ広場として活用できるよう地区体協と住民による健全運営を期待する。こうした大・小の地域的運動施設の能率的運営と本団一地区協の連係が眞の市民スポーツの振興となるのを信ずる。

●主体的組織活動の強化を――

本団は優れた組織力をもつ優秀スポーツ団体である。その团结力と行動力は先人が印された輝やかしき歴史と伝統に見ることがができる。近年は市民のスポーツニーズの多様化に伴うスポーツ団体の増加により三十五団体が加盟する大所帯となつた。ともに独自の活動目標をもちながら市民スポーツの振興、向上を共通の願いとして努力はしているものの、本団の重点施策である「強い選手の育成」「市民スポーツの振興」には、組織の見直しとその活動の活性化を急がねばなるまい。前述の組織の要である事務局体制の確立とともに役員組織の簡素化、活動目標

による加盟団体組織の分割、小グループ化を試み、より主体性のある組織活動の強化を図り、行動する体育団のイメージアップを図ることを提言する。これまでの権威と伝統を守り続けようとしても許されない時代であることを認識。自力で市民の期待のいく実績を団体の組織をあげて市民の前に提示すべく、大胆なシステム改革を検討したい。

●強化・振興基金の確保を――

競技スポーツの振興は単に競技水準の向上だけでなく、市民のスポーツへの興味、意欲をかけて活力に満ちた地域社会の形成に貢献する。このため文部省は五百億、新潟県体協は六億のスポーツ振興基金を確保し、その果実により選手強化事業の充実に取り組んだ。

本団は昨年度、一億円基金の五ヶ年計画をたてた。本団の調査によると、各競技団体の強化費の要求額は八七〇万円であった。本年度本団の強化向上費一五〇万円は少ない額ではなかろうが、分配額にすると必要額の何%にもならないのが実情である。去る十二月、本団はスポーツ振興基金の年間補助及び選手強化費について各一千万円と本団事務局員手当等三百六十万円を市当局に要望した。振興基金の確保については研究委員会にて早期実現を期しているが、市民の

応援費として市当局の支援を得るには、市民の期待に応える競技成績と加盟団体各位の理解と意欲による自主財源の確保が絶対条件となる。具体策を急ぎたい。

●社会的育成機関の充実を――

学校依存の選手養成には限界がある。特にトレーニング技術の科学化、高度化時代では優秀選手の養成は、その専門性とトレーニング条件の整った社会的土壤が要求される。県内でも社会的育成機関「スポーツクラブ」出身選手が学校のゼッケンで県以上の大会制覇が目立ち、トレーニングの一貫性から技術的な向上が伺える。当地域はやや立ちはだかれる感がある。小・中高校の指導者の連係を深め一貫した指導体制の確立と共に、競技団体によるスポーツ教室からスポーツクラブの設置等ジュニア強化事業に積極的ボランティア精神による支援体制の確立を急がなければならない。

●組織的指導体制の確立を――

柏崎体育の心棒は県内一級指導陣だった。その多くが学校の体育専門外の教科担当教師であつたこと、しかも積極的に社会体育組織に参加され支え合い協力し合つて幅広く選手指導や大会運営にあたられたことが柏崎方式の指導体制だった。が、近年指導者の高齢化、若手指導者

平成四年度優秀体育人表彰

—三三九名が受賞—

● 体育功劳賞 渡辺五郎兵衛氏
感謝状 柏島利夫氏 銀会

本団は、十二月二十一日、委員会を開催、平成四年度優秀体育人被表彰者の選考を行った結果、個人五十五、団体四十二、計三三九名が晴れの栄誉を受けました。

「体育功労賞」「感謝状」については一月二十二日の新春体育懇談会の席上で表彰が行われました。全国大会で活躍された優秀競技者賞と本年度の規約改訂により新設された競技者賞(競技スポーツ部門)と奨励賞(生涯スポーツ部門)——いずれも県、ブロック大会で優秀な成績をあげたもの——については、二月六日、産業文化会館に於いて行わ

れます。受賞内容等についての特長を拾つてみました。

①久し振り、中学生野球の受賞。

—柏崎市立西中通中学校——
昭和四十八年度、同校が中部日本大会準優勝以来の受賞。

西中通地区少年野球育成会の成果でもあり意義深い。

②競泳、女子選手で受賞。

—三井田さん(第二中)——

女性スポーツの不振、競泳人口減少の中で大会新記録の優勝は見事。スマミングクラブと学校部活の連係指導の結果として高く評価される。

③全国級の強い選手の受賞——アーチェリーの福原君(産大附属高校)——

強い選手の育成は本団重点施策のトップ。全国高校ランキンガ二位は将来が頼むらしい。

④相変わらず強い柏崎の継走——
—中・高校四種目に優勝——

陸上競技の華、リレーは柏崎のお家芸、今年も伝統が守られてうれしいことです。

⑤本格派のソフトボールの受賞。
—かしわレディース——

第三中学校四〇〇米リレー——
ム、鈴木徹、竹内仁志、森山秀幸、小堀裕介、平田淳

・第23回ジュニアオリンピック
棒高跳、7位、4米40

・第47回国民体育大会八〇〇米
4位、1分54秒18

安井 真(柏崎高等学校)
・第23回ジュニアオリンピック
男子円盤投、優勝、45メートル

稲川啓俊(柏崎高校教員)
・第23回新潟県実業団対抗陸上競技大会、男子走幅跳、優勝、7メートル

小林正一(柏崎信用金庫)
・第23回新潟県実業団対抗陸上競技大会男子八〇〇米、優勝、2分4秒5

武藤宣義(東京電力柏崎)
・第23回新潟県実業団対抗陸上競技大会男子五〇〇〇米競歩、優勝、22分47秒2

二瓶昭夫(柏崎養護学校さざなみ分校教員)
・第21回長岡ロードレース大会
20km優勝、1時間5分54秒

一秒〇)、中村茂樹(第二中、棒高跳四米一〇)ともに本年度県中ランク一位、受賞はされなかつたが、本年度の優秀選手、将来に期待したい。

◎優秀競技者賞

高橋達也(柏崎市役所)

・第76回日本陸上競技選手権大会50km競歩、6位、4時間51分25秒

小林哲也(柏崎高等学校)

・第45回全国高等学校総合体育大会陸上競技選手権大会

齊藤裕行(柏崎養護学校教員)
第39回男子全日本教員バッケントボール選手権大会新潟教員チームメンバー、優勝

福原伊公哉(新潟産業大学附属高等学校)
・第10回全国高等学校アーチェリーリーグ選抜大会シングルラウンド、2位、一九六点

の不足等から組織的指導体制に陰りが見えてきた。成績不振の原因の一つでもある。今、国家的にスポーツ指導者が育つ土壤が用意されている。本団は優秀選手の養成に欠かせない優秀指導者の県外研修などに取り組むと共に、学社一体の指導組織の強化による積極的研究活動の推進と現資格取得者の活用を図り指導サービスに努めることを提言する。

本団のかかえる課題は多く、いずれも難問ばかりであるが、本市のスポーツ振興推進の中核団体としての自覚を一層強め、先輩に学び、頼らず、自信と勇気をもって、強い選手の養成と生涯スポーツの推進を目指し、「前進する団体」とならなければならぬ。「二十一世紀のスポーツ都市柏崎」めざして。

原 剛(柏崎市役所)
・第40回新潟県青年大会陸上競技大会男子四〇〇米、優勝、54秒17

李容蘭(新潟産業大学)
11秒88

太田高史(第一中学校)	村山政昭(プロスタッフ)	た秋季大会、演技競技、優勝
・新潟県カデット卓球大会、全日本選手権大会予選会、優勝	・新潟県テニス選手権大会ダブルスの部、45歳以上、優勝	田中優子(新潟産業大学附属高等学校)
五十嵐勝成、松井佳文、徳永悟史、五十嵐充、山波健、小池圭、太田高史、行田信司	石橋多計見(白竜TC)	・第7回新潟県高等学校なぎなた秋季大会、演技競技、優勝
・関杯卓球大会、男子団体3位	・北信越テニス選手権大会シングルスの部、45歳以上、2位	池田美由紀(なぎなた協会)
米山中学校男子ソフトテニスチーム、黒崎克己、深井誠、片山英樹、山本穂高、小関浩也、猪爪誠、黒崎優、西村哲	柏崎高校ハンドボールチーム	・第3回新潟県ジュニアなぎなた競技練成大会、演技競技中学生の部、団体2位
・第23回新潟県中学校選抜総合体育大会、男子団体2位	種岡伸也、金子宏道、小林聰、三井田直樹、宮嶋鉄也、今井寛裕、内山良太郎、小林健太郎、村田理、佐藤司、若林辰明、小林勇、宇佐美徹、栗原夕輝、村尾耕一郎	佐藤めぐみ・深井望(なぎなた協会)
猪爪里美・赤川裕美(鏡が沖中学校)	・全国高等学校選抜ハンドボール大会新潟県予選会、2位	・第3回新潟県ジュニアなぎなた競技練成大会、演技競技小學生高学年の部、団体優勝
三井田正秀(白竜TC)	柏崎クラブハンドボールチーム	大沢友里(なぎなた協会)
・全日本都市対抗テニス大会北信越予選会新潟県メンバー、団体優勝	矢嶋晃仁、堀秀樹、深井克哉、稻田栄吉、鴨下和彦、三五秀行、北村孝、広川則夫、石塚豊一、山川博行、押見武雄	・第3回新潟県ジュニアなぎなた競技練成大会、演技競技小學生高学年の部、団体優勝
遠藤勝也・遠藤晶子(プロスタッフ)	新潟県ハンドボール選手権大会、2位	福井鐘一(新潟県獣友会柏崎射撃クラブ)
・ブリンスカップ新潟県予選会ミックスタダブルスの部、優勝	柏崎弓道連盟	・第47回国民体育大会クレー射撃トラップ新潟県メンバー
元井久美子(新潟産業大学附属高等学校)	茂田井まゆみ、唐沢和子、山田米子	高田ワンバウンドバレーボールチーム
・第7回新潟県高等学校なぎな大会、優勝	・第38回新潟県弓道選手権大会団体女子、2位	高橋勉二、内山桂司、植木一、猪爪定一郎、横田三四次、百合子
清水覚子(西空館柏崎支部)	・新潟県空手道選手権大会無段者の部、優勝	・新潟県スポーツフェスティバル、ワンバウンドバレーボールBクラス、優勝
・第8回新潟県少年空手道選手権大会、小学校高学年女子組	清野澄子(柏崎卓友会)	比角羽森ソフトバレーボールチーム
加藤達男(百才会)	・第5回全国健康福祉祭やまな大会、ラージボール卓球、新潟県メンバー3位	長沢崇広、田辺学、勝野智哉、池田圭太、吉野雄一、吉越正美、岡下万里子、土田澄子
遠藤勝也(プロスタッフ)	・グリーンピアカップ地区予選会、ダブルス優勝	

「よしんひょうめい」に
よるこびと自覚を持とつ

自分の信ずる所を多くの人に
あきらかにしてのべることを、
所信表明といいます。

『十二月六日に執行されました
市長選挙において、多くの市
民の皆さまからの御挨拶を得て
当選させていただき、翌七日か
ら早速、市長としての職務を担
わせていただいております。』

『公約の実現に向けて、微力で
はありますが、我が一身を奉ず
る覚悟でありますことを申し上
げ、以下に市長としての私の姿
勢と考え方を御説明させていた
だくこといたします』

十二月十四日開会の十二月定
例議会初日の西川市長の所信表
明演説は、こう述べて始まりま
した。

平成四年十一月九日に、飯塚
市長の突然の病気辞任が臨時議
会で承認されたことにより、突
如行われた師走の市長選挙で西
川正純新市長が誕生したのであ
ります。

更に市長は『積極果敢に市政
の勃興をリードされて來た飯塚
市政を継承しつつ』と言われた
あと『私は「緑あふれて市民に
やさしい都市(まち)づくり』
をスローガンに掲げました』と
続けられました。

『市長があお言っているから
しめたものだ』とか『これは期
待出来るぞ』と腕をこまねいて
平成五年であると認識しよう。
柏崎体育團の真価が問われる
べきであります。

『市長があお言っているから
しめたものだ』とか『これは期
待出来るぞ』と腕をこまねいて
平成五年であると認識しよう。
柏崎体育團の真価が問われる
べきであります。

理事 佐藤和夫

比角白竜ソフトバーレーボールチー

ム
池田 諭、小林政栄、岡下万里子、吉野雄二、

・新潟県予選会、優勝

・新潟工科大学「駅前工場跡地」「郡病院跡地」「人づくり・まちづくり」「保健・医療・福祉」「基盤整備」「原子力発電所」など多様な施策を述べられた中で「体育・スポーツ」について次のように表明されました。

『スポーツも人づくりの重要な要素であります。既存組織で

ある柏崎体育團を通じての市民

とのともに、サーフボードを含め

たマリーンスポーツの充実や、ス

ポーツの振興に対しては相当の

力を注がれておられますし、健

康、体育、スポーツの文字が必ず記述の中にはありました。しか

し、今回のように『既存の組織

である柏崎体育團を通じて』と

本團の名称が明記されたのは誠

にまれなことですあります。

私共体育團関係者、加盟団体

はこのことをどう受けとめて行

くのか充分に検討し、対策を立

てる必要があると痛感し、ここ

に紹介いたします。

それは市長さんが動くのでは

なく、体育関係者の振興、活動

を期待されての発言と受けとめ

るべきであります。

柏崎体育團の真価が問われる

べきであります。

武本正美、小林政栄、津端正

子、岡下万里子、吉野雄二、

・新潟県予選会、優勝

・新潟県予選会、優勝

・新潟県予選会、優勝

・新潟県予選会、優勝

・新潟県予選会、優勝

・新潟県予選会、優勝

・新潟県予選会、優勝

ム

武本正美、小林政栄、津端正

子、岡下万里子、吉野雄二、

・新潟県予選会、優勝

1 功労賞

(1) 当地方の体育振興と名譽を高揚するうえで大きな貢献をしたもの。

(2) 学問又は技術研究のうえで大きな功績があつたもの。

2 指導者賞

(1) 常に体育の本質をわきまえ、優秀な競技者の育成に努めたもの。

(2) 勝れた指導技術により所属団体を永年にわたり優秀な成績をあげさせたもの。

3 オリンピック賞

オリンピック大会の日本代表に選出されたもの。

4 スポーツ栄誉賞

(1) 日本代表選手に選出されたもの。

(2) 偉大な記録又は成果をあげたもの。

5 特別優秀競技者賞

継続的な努力により永年にわたり競技人として新潟県のトップレベルにあるもの。

6 優秀競技者賞

(1) 競技人として全国大会において優秀な成績をあげたもの。

(2) ナショナルチームの候補選手に選出されたもの。

7 競技者賞(競技スポーツ部門)

県以上の公式大会において優秀な成績をあげたもの。

(2)

新潟県選抜チームの選手に選ばれ、全国大会に出場したるもの。

8 奨励賞(生涯スポーツ部門)

(1) 県以上の公式大会において優秀な成績をあげたもの。

(2) 新潟県選抜チームの選手に選ばれ、全国大会に出场したものの。

第三条 柏崎体育団加盟団体及び柏崎体育団事務局は、第二

条に該当するものを別に定める様式に従い、指定の期日までに柏崎体育団長あて内申するものとする。

第四条 柏崎体育団委員会は、内申されたものについて精査検討して表彰を受けるものを選定する。

第五条 表彰式に必要な事項はその年度ごとに定める。

第六条 この規程は柏崎体育団委員会において必要に応じて改廃する。

第七条 この規程を運用するに必要な細則は別に定める。

第八条 付則

この規程は、昭和38年1月1日から施行する。

この規程は昭和52年1月1日から適用する。

第九条 第二条5における「永年にわたり」とは「十年」とするが「種目によっては理事会において検討」のうえ決定される。

この規程は昭和52年1月1日から施行の体育功労者及び優秀競技者表彰規程及び優秀競技者表彰規程は廃止する。

この規程は昭和52年1月1日から適用する。

柏崎体育団表彰規程細則

第一条 表彰規程第二条の1・2及び5の該当者は、同一人が同一の賞を再度受けるべきものではない。

第二条 表彰規程第二条3の該当者は、当地方出身者であること。

第三条 表彰規程第二条4の該当者は、当地方出身者であつて(I)に示す「日本代表選手に選出されたもの」とは、世界選手権大会、アジア大会、アジア選手権大会、ユニアードの日本代表をいう。

第四条 表彰式に必要な事項はその年度ごとに定める。

第五条 表彰式に必要な事項はその年度ごとに定める。

第六条 この規程は柏崎体育団委員会において必要に応じて改廃する。

第七条 この規程を運用するに必要な細則は別に定める。

第八条 付則

この規程は、昭和38年1月1日から施行する。

この規程は昭和52年1月1日から適用する。

第九条 第二条5における「永年にわたり」とは「十年」とするが「種目によっては理事会において検討」のうえ決定される。

この規程は昭和52年1月1日から施行の体育功労者及び優秀競技者表彰規程及び優秀競技者表彰規程は廃止する。

この規程は昭和52年1月1日から適用する。

4 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

5 この規程は昭和63年12月15日から施行する。

6 この規程は平成4年11月12日から施行する。

7 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

8 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

9 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

10 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

11 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

12 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

13 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

14 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

15 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

16 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

17 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

18 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

19 この規程は昭和57年12月18日から適用する。

いう。(小・中・高・大学・一般の種目別毎を含む)

2、優秀な成績とは個人にあっては入賞したもの、又は大会新記録をあげたもの。

(4) 団体にあっては上位8チーム以内に含まれるもの以上

2、優秀な成績とは個人にあっては入賞したもの、又は大会新記録をあげたもの。

村山範子、前山庸子、加藤八重子

・新潟県スポーツフェスティバル、ラージボーグ卓球、優勝

・佐藤綾子、鈴木美智代、森山正雄、田辺行雄、広瀬勝、相沢貞吉、新潟県スポーツフェスティバル、ラージボーグ卓球、2位

阿部 寛
・全国スポーツレクリエーション祭マスターZ陸上競技大会、四〇〇メートルリレー新潟県チームメンバー、2位

柴野三郎
・全国スポーツレクリエーション祭マスターZ陸上競技大会、四〇〇メートルリレー新潟県チームメンバー、2位

砲丸投M55、8位、8米16